




MGU Chapel Letter

—第 20 号 2023 年 2 月 1 日— 発行：大学宗教センター



* 2022 年度聖句 *

「主の慈しみは決して絶えない。
主の憐みは決して尽きない。」

哀歌 3 章 22 節



2022 年度の大学礼拝は 1 月 20 日（金）で終了しました。

最後の礼拝では、末光眞希学長がトルストイの童話「人はどれだけの土地がいるか」をもとにメッセージを述べて下さいました。

❖ 第 4 回キリスト教講座のお知らせ

第 4 回キリスト教講座「宮城女学校の金子みすずたち：1920～30 年代の生徒による童謡」が 2 月 7 日（火）18 時 10 分～19 時 10 分に、礼拝堂 2 階のヴェリタスで開催されます。講師は栗原健先生（宗教センター長）。大正から昭和にかけての仙台は、童謡詩人スズキ・ヘキらの活躍により童謡作りが盛んになっていました。その影響のためか、宮城女学校（本学の前身）の生徒たちも童謡を作っています。この講座では、彼女たちの作品から 19 篇を紹介します。どなたでもお越し下さい。

❖ 学生によるウクライナ展示が礼拝堂で行われました

学生有志による展示企画「ひまわりの咲くほうへ～ウクライナに思いを寄せて～」が 1 月 16 日から 24 日まで、礼拝堂 1 階ロビーで開催されました。紛争の長期化に伴ってウクライナへの関心が薄れることを憂慮し、この問題に関するドイツ・フランスの新聞記事のパネル、ウクライナ関連の書籍などを展示しました。今後も同様の企画を開催できればと考えております。



✦ バレンタインの日を前に ✦

2月のイベントと言えば、バレンタイン。日本では「チョコレートを贈る日」のようになっていますが、欧米などでは、夫婦が互いに贈物をし合って愛情を確かめ合う日とされています。こうした習慣は、一体どこから来たのでしょうか。

これはなかなか難しい質問です。「バレンタイン」という名称は、聖ヴァレンタインという3世紀の司祭の名前から来ています。伝説によるとこの聖者は、当時独身を義務づけられていたローマの兵士たちを秘かに結婚させていたために、皇帝の怒りを買って処刑されました。愛し合う人々を助けるために命を賭けたヴァレンタインを記念して、彼が殺された2月14日が「愛を祝う日」となった・・・というのがよく聞く由来譚なのですが、実際にはそのような単純な話ではなさそうです。ローマ時代の異教の祭りにキリスト教の習俗が混じりあい、ヨーロッパやアメリカで姿を変えながら現在の形になって行った、というのが実情のようです（興味がある方は、浜本隆志著『バレンタインデーの秘密』[平凡社新書]をご覧ください。詳しい歴史が出ています）。

それにしても、「愛」とは何でしょうか。「愛」を自分の言葉で言い表すとしたら、どのように言うことができるでしょうか。

カナダで重度障がい者をサポートして来たある活動家が、このように述べています。

「人を愛するとは、その人自身の美しさを自分で発見させ、見せてあげることだと思います。その人の存在する場所を作ってあげることです。あなたは大切な人であり、あなたは価値があると、その人自身に示してあげることです。」

これは確かにその通りです。その人が大切に価値ある存在であることを伝え、相手のために居場所を作る。これは愛の共通の目的です。社会で疎外されて苦しんでいた人々に向かってイエスがしたことも、まさにこのことでした。

「愛は、すべてを完成させるきずなです」（コロサイの信徒への手紙3章14b節）という聖書の言葉があります。私たちが大学で学び社会で働いて行くのも、他者と共に生きる居場所を作り合い、お互いの美しさに気づいて行くためと言うことができます。他者を一層深く理解することができるよう、しっかり学んで行きましょう。（栗原）

【連絡先】 宮城学院キリスト教センター

TEL : 022-279-9558

Email : christ-c@mgu.ac.jp